

No. 19K0007

2020年1月10日発行

2020年1月13日交付

株式会社 アイ・エス・レー・ティング



## 1. 格付結果

企業名	大日本印刷株式会社
格付の種別	情報セキュリティ格付
格付 I D コード	10000270107C1910
格付スコープ	蕨工場における情報処理サービスに関する設計・開発及び製造
格付対象	情報イノベーション事業部／BPOセンター／BPOシステム開発本部および 株式会社 DNP データテクノ／第1製造本部における IPS (Information Processing Services) 関連部門
想定リスク	情報漏えい
格付符号	AAA is (トリプル A)
格付の方向性	安定的
有効期間	2020年1月13日から2021年1月12日まで (交付日から1年間)

●お問い合わせ先 株式会社アイ・エス・レー・ティング 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-10-2 きめたハウジング第20ビル8F  
TEL: 03-3273-8830 <http://www.israting.com>

情報セキュリティ格付は、被格付組織等から入手した情報に依拠して形成した当社の意見であり、その正確性、完全性、網羅性等は必ずしも保証されてはいません。格付事由書、格付レポート等は、原則として被格付組織または被格付組織の格付けを要請した者からの依頼に基づき有償で作成されたものであり、被開示者、閲覧者等には参考情報としてご提供されるものです。格付事由書および格付レポート等は、被格付組織の事業やサービス、被格付組織との取引や情報共有等を推奨するものではありません。当社は、情報セキュリティ格付に関するクレーム、訴訟その他の紛争、被格付組織その他の第三者に関して生じる一切の損害、損失、費用等について責任を負うものではありません。なお、情報セキュリティ格付に関する一切の著作権その他の知的財産権、営業秘密、ノウハウその他の権利・利益は当社に留保され、当社に専属的に帰属するものとします。

Copyright (C) 2020 I.S.Rating All rights reserved.

## 2. 格付理由

大日本印刷株式会社（以下、DNP 社）は、1876 年（明治 9 年）、日本で最初の本格的な印刷会社「秀英舎」として誕生し、現在、事業領域は出版印刷や商業印刷にとどまらず、パッケージや建材、エレクトロニクス、情報記録材、エネルギー、ライフサイエンス分野に至っている。

事業ビジョン「P&I イノベーション」に基づき、永年培ってきた印刷技術（Printing Technology）と最新の情報技術（Information Technology）を融合させ、さまざまな産業の課題を解決してきた知識やノウハウを活かして、21 世紀の創発的な社会に対して新しい価値を生み出すソリューションを提供している。また、情報セキュリティ、個人情報保護への取り組みについては、P&I イノベーションを推進するなかで、個人情報や顧客からの預かり情報などの情報資産の保護を当然の責務と考え、グループ全体で、情報セキュリティおよび個人情報保護を経営の重要課題のひとつとして捉え、体制の強化や社員教育などを通じて、厳密な管理を維持・継続して取り組んでいる。

格付けスコープである、情報イノベーション事業部／BPO センター／BPO システム開発本部および株式会社 DNP データテクノ／第 1 製造本部における IPS (Information Processing Services) 関連部門は、企業・団体等からデータ提供された個人情報を個別に印字し、郵便の形態に仕上げて発送する業務が中心である。蕨工場の格付対象範囲における重要情報資産としては、顧客からの預かり情報（個人情報）及び金券類であり、サーバおよびデータ保存媒体に格納されているシステム内の情報、ならびにこれらのシステムから出力される各種帳票等が主なものである。外部認証として、プライバシーマーク、ISO/IEC27001 等を取得しており、蕨工場においては、これまで毎年約 300 社弱からの外部審査を受けてきたが、近年増加傾向にある（2019 年は約 527 社。内、約 70 社が工場視察あり）。また、2010 年 7 月に情報セキュリティ格付を取得しており、今回、9 回目の更新審査を実施した。

マネジメント成熟度の観点では、情報セキュリティ委員会を中心とした情報セキュリティ管理体制が構築され、情報セキュリティ管理規程、個人情報保護規程のもと、各種規程類が整備され、セキュリティ教育、アセスメント、監査・自己点検、小集団活動、物理的なアクセス管理等で非常に高いレベルで管理態勢が構築されている。リスクアセスメントや前年度における審査指摘、外部監査指摘等を踏まえた評価・見直しが行われており、マネジメントシステムの PDCA サイクルが確立していると評価できる。特に、セキュリティ教育では、ケーススタディによるものや製造プロセスでのヒヤリハットした実動画を取り入れ、記入式により回答させることで、より

---

●お問い合わせ先 **株式会社アイ・エス・レーティング** 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 1-10-2 きめたハウジング第 20 ビル 8F  
TEL: 03-3273-8830 <http://www.israting.com>

情報セキュリティ格付は、被格付組織等から入手した情報に依拠して形成した当社の意見であり、その正確性、完全性、網羅性等は必ずしも保証されてはいません。格付事由書、格付レポート等は、原則として被格付組織または被格付組織の格付けを要請した者からの依頼に基づき有償で作成されたものであり、被開示者、閲覧者等には参考情報としてご提供されるものです。格付事由書および格付レポート等は、被格付組織の事業やサービス、被格付組織との取引や情報共有等を推奨するものではありません。当社は、情報セキュリティ格付に関するクレーム、訴訟その他の紛争、被格付組織その他の第三者に関して生じる一切の損害、損失、費用等について責任を負うものではありません。なお、情報セキュリティ格付に関する一切の著作権その他の知的財産権、営業秘密、ノウハウその他の権利・利益は当社に留保され、当社に専属的に帰属するものとします。

Copyright (C) 2020 I.S.Rating All rights reserved.

理解度をチェックすることができるような工夫や規程を抜粋した確認テストに取り組んでもらうことや規程を閲覧する機会を増やすなどの工夫もみられた。また、標的型攻撃メールに対する教育と訓練を実施し意識付けを行っている。

セキュリティ対策の強度の観点では、高セキュリティ区画への入退管理は厳格に運用され、警備員による監視、動線と網羅性を意識した多数の監視カメラの設置、2名同時による入退出制御、入室人員数の表示、侵入検知のためのモーションセンサーの設置、ICカード認証や共連れ防止設備に加え、外来者も含めポケットレスの制服の着用、ウエアラブル端末（腕時計を含む）の持込み禁止、機器メンテナンスなどで部外者が出入りする際に印刷物が見えないようにするためのカーテン仕切り、データ処理の自動化、システム開発・保守におけるコードレベルまで行う変更管理など、悪意の外部者はもちろん、悪意のある内部者に対しても発見的・抑止的・防止的効果を発揮した高い管理策が施されている。製造プロセスにおいても、自社開発の品質管理システムを構築し、二次元バーコードによる通数・頁単位でのトレーサビリティシステムが確保され、過失・不正の両側面から情報漏えいに対し備えている。

また、個人情報を保存したデータ保存媒体の廃棄については、廃棄前の保管から廃棄にいたるまで、厳格な対策を講じている。廃棄予定の媒体は高セキュリティ区画にて施錠保管され、廃棄時は、廃棄手順に則りフォーマットツール（NULL値の書き込みなど）を用いて情報を復元ができない状態にするほか、物理的に破壊して復元できない状態にしている（廃棄証明書と廃棄前後の画像を証跡として保管している）。

総じて、マネジメント成熟度の観点では、新たな脅威に迅速に対応しており、常時高水準の管理状態を維持・発展させている。また、セキュリティ対策強度の観点では、常時、リスクをモニタリングし、即時に柔軟な対応ができるおり、悪意のある外部者・内部者に対する管理策が継続的に非常に高いレベルで講じられていると評価できる。

以上